

令和4年度 取組の進捗状況

大学名：福井大学

＜I. 先導的・革新的な教員養成プログラム、教職科目の研究・開発＞

※開発科目及び減ずる科目の検討状況について記載してください。

取組の内容	進捗状況	今後の計画
<p>1) 教育課程改革のための協働アクションリサーチの組織的展開とその深化</p> <p>①学習観（学習の基本モード）の転換のためのカリキュラム開発の基盤研究高度化</p> <p>②教育課程デザイン・評価・マネジメントおよびその改革過程の研究</p> <p>③その一大学を超えた広範な共有ネットワーク実現のための実践的試行と連動した協働アクションリサーチの展開</p> <p>.....</p> <p>2) 教職大学院</p> <p>「学校拠点省察的実践サイクル」(9単位)の開発・実施・省察的プロセス評価・高度化の推進及びそれに伴う全科目の総体の再構成とそのためのマネジメント</p> <p>.....</p> <p>3) 学部</p> <p>協働探究プロジェクト群 (各4～8単位)</p>	<p>① 教師の実践的な力量形成過程とそれを支える学習・組織デザインに関する長期事例研究の組織的推進・集積（連合教職大学院研究紀要『教師教育研究』ほか所載の論文数36編，2022年）</p> <p>②a. 学習展開プロセスに関わる当事者と支援者双方の省察的記録に基づく内在的評価をめぐる事例の集積分析と省察的学習記録による学習過程評価の組織化・システム化の推進</p> <p>b. 教師の学習プロセスの基本的モード展開のための改革マネジメントに関する協働アクションリサーチの推進</p> <p>③ 教職員支援機構との協働による「新たな教師の学び」実現のための全国規模の研修開発に関わる協働アクションリサーチに着手（「研修デザイン力養成セミナー」全国より120名参加）</p> <p>.....</p> <p>① 「学校拠点省察的実践サイクル」の来年度本格実施にむけて、年間展開デザインに基づく試行を推進。（受講者数130人・関連拠点校60校）⇒学校での取り組みの実際の展開に即した大学院での教育課程における内容・アプローチの開発・調整</p> <p>② プロセス評価の方法とそのシステム化のための研究開発の推進（実践過程の省察的な記録に基づく実践展開・力量形成の漸成プロセス評価とその分析方法・フレームの構築）</p> <p>③ 既存の共通科目の一単位化と相互関連再構成のための調整の実施。（全9科目をそれぞれ一単位化しつつ有機的に編成）</p> <p>④ 単位互換のための新設科目の研究開発の推進。</p> <p>.....</p> <p>① 「Co-agency 協働学習支援プロジェクト」「Life Partner 多様</p>	<p>① 力量形成の支援促進/阻害阻止の要因/構成の比較事例研究を通じた特定/変動に関わるコンフリクトとその機序およびそのマネジメントの比較事例研究</p> <p>② 改革マネジメントの力量形成サイクルとその評価をめぐる研究の推進（教職員支援機構・福井県教育委員会等との協働実践を基盤とする共同研究の推進）</p> <p>③ 改革プロセスをめぐる事例研究・比較研究の推進と其れに基づく改革マネジメント高度化への提起</p> <p>④ 専門職学習コミュニティを支える学校・教育委員会・支援機構・教職大学院の協働支援ネットワークのデザイン・マネジメントをめぐるアクションリサーチ推進</p> <p>.....</p> <p>① 試行における学生・教員の省察的レポートとそれを踏まえたステークホルダー参加の展開検討セッションでの協議、および中核コンセプトに関する研究等を踏まえたカリキュラムにより令和5年度1年次本格実施（「学校拠点省察的実践サイクル」全9単位）</p> <p>② 既存の共通科目の縮減と有機編成を含む教育課程包括デザインの編成（シラバス・ガイダンス資料の共有、科目間の連関を踏まえた科目複合総合評価、[学習過程の長期的な自己省察の記録に基づく検証]）</p> <p>③ 学部、他学部・諸研修との連結交流サイクル設定</p> <p>.....</p> <p>① 「Co-agency 協働学習支援プロジェクト」の本格実施</p>

<p>をコアとするカリキュラム複合とそのマネジメント「Co-agency 協働学習支援プロジェクト」「Life Partner 個別学習支援プロジェクト」「教科探究プロジェクト群」「STEAM 総合探究プロジェクト群」</p>	<p>な子どもたちの支援プロジェクト」の第1年次試行サイクルの推進。(受講者数各100名)</p> <p>②「STEAM 総合探究プロジェクト群」・「教科探究プロジェクト群」のカリキュラム研究開発の推進</p> <p>③ 教育課程改革のための学部FDの継続的な開催(現在までに3回の開催) フラッグシップ科目新設にともなう既存科目の縮減とそれにとまなう教育課程の調整および有機的統合のための研究開発の推進(コアプロジェクト群と有機的に編成された教職科目の4年間のサイクル展開・シラバス・運営組織および評価システムの開発)</p>	<p>と継続的なプロセス評価の実施Life Partnerの2年次試行サイクルとプロセス評価実施⇒試行における学生・教員の省察的レポートとそれを踏まえたステークホルダー参加の展開検討セッションでの協議、および中核コンセプトに関する研究等を踏まえたカリキュラムにより令和5年度1年次本格実施</p> <p>② STEAM・教科探究の研究開発・試行と評価</p> <p>③ 縮減した既存カリキュラムを含む有機的協働マネジメントサイクルの構築</p>
<p>4) 学習観転換・「教師の新たな学び」の実現のための省察探究型研修の広域的な組織化</p> <p>① 校内研修改革推進拠点校</p> <p>② 「教師の新たな学び」の実現ための研修をめぐる教委・研修センターとの協働</p> <p>③ 「教師の新たな学び」の学びのための研修開発・マネジメント力形成をめぐる教職員支援機構との協働</p>	<p>① 拠点校における探究型研修サイクルの組織化と省察的評価</p> <p>② 福井県教委・研究所との連携による新たな省察探究型研修の試行的実施(参加者150×3サイクル)/宮古島・東京における省察探究型研修の実施</p> <p>③ 全国規模の「研修デザイン力養成セミナー」の企画運営実施(8月4-5日,参加者120名,全都道府県・政令指定都市より)</p>	<p>① 研修サイクルのプロセス評価の実施とそれに基づく発展サイクルの実現</p> <p>② 試行に基づく「中堅教員研修(悉皆・10年サイクル)」の実施とそのプロセス評価/他拠点による省察探究型研修のネットワーク化</p> <p>③ 支援機構の協働による「研修デザイン力養成セミナー」の継続実施と「研修マネジメント力育成プログラム(インターバル型研修・リーダー教員育成研修)」の新規実施</p>
<p>5) 教育課程改革マネジメントの高度化</p> <p>① 教育課程マネジメント組織化・高度化</p> <p>② DX化推進体制の強化</p> <p>③ 学習観の転換に関わる教育課程評価システムの研究開発</p> <p>④ 教育課程改革のためのFD・SDの組織化・高度化</p>	<p>① 大学院カリキュラムマネジメント委員会/総合教職開発本部の連携による養成研修教育課程の包括マネジメント実現に着手</p> <p>② 永和システムマネジメント・内田洋行の参画による養成研修教育課程ネットワーク化・DX化推進体制の実現/省察的実践記録集積・共有・評価における一連のシステムのDX化をめぐる取り組みの推進</p> <p>③ 学習者自身の学習展開省察記録に基づく省察過程展開評価の研究開発</p> <p>④ 教職大学院FD協働研究サイクル(毎週2時間・参加者数40~60名)の持続的推進 学部FD:全構成員参加の教育課程改革のためのFDの開催(現在までに3回×全構成員参加)</p>	<p>① コア研修担当者の実践的研修の実施 ・フラッグシップ科目と関連科目の総体に関わる包括的カリキュラムデザインとそのマネジメント ・研修と養成を結ぶ生涯にわたる力量形成のプロセスを踏まえた超包括的支援(教育課程)の構想</p> <p>② 学習支援とプロセス評価を一体的に進める組織のネットワーク化・DX化の推進</p> <p>③ 比較事例研究に基づく学習者の省察的実践の発展過程をめぐるモデルと評価指標の明確化</p> <p>④ フラッグシップ科目の展開に沿った事例研究・評価研究を中心とするFDサイクルの実施 ・フラッグシップ科目の実施・開発の展開に沿ったFDサイクルの発展的な継続</p>

< II. 全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開 >

取組の内容	進捗状況	今後の計画
<p>1) 全国の小規模教職大学院を単位互換によって連携を強めることで、</p> <p>① 限られた大学教員数をカバーし、最新の幅広い教育情報の提供、</p> <p>② 都道府県の境界を越えた実践検討の交流の場を確保（実践研究福井ラウンドテーブル）</p> <p>③ 現職教員が働きながら学べる仕組みの拡大を目指す。</p>	<p>① 各大学が参加大学に提供してもよい特色ある授業にどのようなものがあるか、オンラインで提供可能か等について調査中。</p> <p>② 長期的実践を持ち寄って傾聴と語りを実施するラウンドテーブルの単位互換について福井大学内で整備している。</p> <p>③ 働きながら学ぶためには、各大学及び各都道府県教委が学校拠点方式の導入を検討する必要があり、学校拠点方式の説明を実施中。</p>	<p>大学設置基準等による教育課程等の特例制度が今後専門職大学院に拡大することに合わせて、オンラインでの科目等の整備を検討する。</p>
<p>2) 教委・企業を含む養成研修改革のためのネットワークの組織化</p>	<p>① 福井県教育委員会と更新講習後の教員研修の共同開催を決定</p> <p>② 福井県教育委員会指導主事と学部及び大学院教員の相互併任制度（現在各2名）を大幅に拡大し、教員研修及び学部教育・大学院教育の相互乗り入れを計画中。</p> <p>③ 加賀市教育委員会、板橋区教育委員会、宮古島市教育委員会と連携し、校内研修と教員研修がリンクしたシステムの開発を進めている。</p> <p>④ 内田洋行とクロスアポイントメントの実施決定。附属学校および学部教育のDX化を進める。</p> <p>⑤ SONY とタブレット以外のデバイスの開発研究を推進。</p>	<p>① 福井県教育委員会と30歳代・40歳代・50歳代の教員研修を実施するが、その実践記録の繋ぐシステムの開発を進める</p> <p>② 指導主事と大学教員の併任制度の拡大を目指し、協定書の取り交わしを進めている。</p> <p>③ クロスアポイントメント（内田洋行）により特命教員を雇用し、企業と連携した附属学校のDX化、探究活動に適した理科室開発を進める。</p> <p>④ SONY との共同研究を含めた連携強化を進め、福井県教育委員会と協働した体制構築を進める。</p>
<p>3) 教職員支援機構およびその地域センターネットワークを通じての協働</p>	<p>① 福井県嶺南地域の教員研修を地域センターとして実施</p> <p>② 教職員支援機構との協働の「研修デザイン力養成セミナー」の企画運営実施（2日間参加者120名、全都道府県・政令指定都市より）およびこの取り組みの成果を踏まえ来年度実施予定の「NITS コア研修(仮称)」の協働の企画推進。</p>	<p>① 嶺南地域での大学と連携した教員研修を、教員研修履歴に搭載できるシステムに変更する</p> <p>② 「研修デザイン力養成セミナー」を発展させ、令和5年度より「NITS コア研修(仮称)」を年間通して連携し実施する。この研修を「リーダー教員研修」「インターバル研修」とリンクさせ、NITS が企画している各都道府県の研修と連動した仕組み構築に参画する。</p>
<p>4) 学習観の転換に関わる養成研修教育課程の評価をめぐる関係大学・機関ネットワー</p>	<p>教師の学習過程の展開とその質を当事者と支援者の省察の記録に基づき検証評価保障するシステムの開発を進める。（集合研</p>	<p>教師の学習過程の展開とその質をめぐる省察的学習過程記録に基づく評価の組織化およびその評価の効果</p>

<p>クの組織化</p>	<p>修・校内研修の質の高さを評価・保障するデジタルバッジの創設に向け検討中。）</p>	<p>をめぐる跡づけおよびシステム開発上の課題をめぐる検討を進め、省察的実践のための評価システム組織化を進める。</p>
<p>5) 教員養成研修における教育課程改革のための、大学教員自身の大学間協働FD交流のための公開研修集会の組織化</p>	<p>① 改革特別フォーラム『新たな教師の学び』を支える協働のために：教員養成フラッグシップ大学構想と養成・研修改革の展望(6/18,オンライン・300名)</p> <p>② シンポジウム『令和の日本型学校教育』を支える『新たな教師の学び』の実現のために・「教員養成フラッグシップ大学の実践と理論」(日本教職大学院協会研究大会・特別シンポジウム・福井大学対面+オンライン, 500名)</p> <p>③ 宮古島・奈良・札幌・東京において教師の学びをテーマとする公開実践交流集会を実施。</p>	<p>教員養成研修において「新たな教師の学び」を実現する教育課程開発・組織化とそのマネジメントに関わる実践と研究の交流を通じたFDネットワークの持続的な展開を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回の全国的なFD交流サイクルの組織化を目指す実践研究福井ラウンドテーブルにおける特別フォーラムの継続的な推進。 ・多様な地域での実践研究交流のセッション(ラウンドテーブル)を持続的に展開する。 ・教職大学院Newsletter(年10回刊行, 20-30頁)による実践研究交流共有ネットワークの恒常的な推進。 ・年次報告書(紀要)『教師教育研究』において、教員養成研修改革をめぐる実践事例研究・組織過程研究を組織的に収録し養成研修改革研究の組織的推進及びその共有を長期的に進める。

＜Ⅲ. 取組の検証を踏まえた教職課程に関する制度の改善への貢献＞

取組の内容	進捗状況	今後の計画
1) 制度改革のための協働研究交流ネットワーク	<p>① 学習観転換のための授業改革・学校改革・教員養成研修改革の取り組みを広く交流・共有・省察・検討するための実践研究福井ラウンドテーブル（実践し省察するコミュニティ）を企画運営し、実践と研究の広域ネットワークづくりを持続的に進める。（6月18-19日、2日間のべ816人、2月18-19日開催予定）</p> <p>② 地域ラウンドテーブルの展開： 宮古島・奈良・札幌・東京において実践の交流・省察のための公開セッション（ラウンドテーブル）を企画実施。</p> <p>③ 教職大学院協会研究大会（於福井大学）における教師教育改革とフラッグシップの企画に関するシンポジウムの企画運営</p> <p>④ 教育のDXを実現するための民間企業との協働 内田洋行とクロスアポイントメントによる人事交流 SONYと協働してDX促進のための新たなデバイス開発に着手</p>	<p>① 実践研究福井ラウンドテーブルを2月・6月に継続的に実施し、実践の交流・省察のネットワークを持続的に拡大する。またラウンドテーブルでの実践報告のデジタルアーカイブスによる集積共有、および参加履歴に基づく認証システムの開発を進め、開かれた実践的研修の機会としても位置づけていく。</p> <p>② 他拠点のラウンドテーブルの展開を支援、ネットワーク拡大に活かす。</p> <p>③ 教育課程改革のための大学間の経験交流・協働研究を進める。</p> <p>④ SONYと協働したデバイス開発に福井県も加わり県内学校で実践開発を予定</p>
2) 国レベルの研修改革のための協働	<p>教職員支援機構との連携による「研修デザイン力養成セミナー」の実施（企画運営ファシリテーションに福井大学の24名の教員が参画、オンライン実施・2日間・小グループセッションによる協働探究型研修・120名参加・全都道府県政令指定都市よりの参加・「新たな教師の学びの姿」を実現するセミナーとしての評価の構想・開発・研究の推進（カリキュラム評価・参加者達成評価の双方）</p>	<p>研修デザイン力養成セミナー」を発展させ、令和5年度より「NITSコア研修(仮称)」を年間通して連携し実施する。この研修を「リーダー教員研修」「インターバル研修」とリンクさせ、NITSが企画している各都道府県の研修と連動した仕組み構築に参画する。</p>
3) 国際的な教師教育改革のための協働	<p>省察探究型研修の企画実施省察サイクルの展開</p> <p>① エジプト 4週間×3サイクル、年間120人が来福 4週間にわたる学修を小グループの協働探究を中心に展開、2022年度は4週間×3サイクルを行う</p> <p>② ヨルダン 2週間3回渡航し、校長研修を実施、12人来福 協働探究型デザインで展開</p> <p>③ JICA 草の根技術協力事業 アフリカ（マラウイ）3週間渡航 マラウイ政府と調整、ナリクレ教員養成大学と共同開催・マラウイ公立7校と授業研究開始</p> <p>④ JICA 課題別研修 7か国14名が来福し、協働探究のデザイン</p>	<p>左記の取組みを継続し、日本での研修と当該国での研修をリンクさせる制度作りを進める。さらに、ジブチ・パキスタンとの教員研修も企画中。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回の実践研究福井ラウンドテーブルにおいて国際的教師教育改革のための実践交流セッションを持続的に展開し、教師教育改革のための世界的なネットワークに参画する。 ・タイに教職大学院のサテライトを設置できるか、具体的な条件の検討を進める。

<p>.....</p> <p>4) 教員養成・研修の生涯にわたる力量形成支援のための①包括的なカリキュラムデザイン・組織、②改革のための組織論的アプローチ、および③改革プロセスマネジメントに関する実践事例の比較検討を通した提言</p>	<p>ンで2週間の研修</p> <p>⑤ EDU-Port、3か国に渡航し同国での研修準備 8名が来福しラウンドテーブル・学校訪問に参加</p> <p>⑥ パキスタン 年内3回渡航し、女子教育の実施</p> <p>⑦ タイ コンケン大学との大学院サテライト設置の検討</p> <p>.....</p> <p>①包括的なカリキュラムデザイン・組織をめぐる専門職学習コミュニティアプローチにもとづく実践研究と開発の推進 ⇒I 参照 学校における学習観転換のための現職教員の協働的な探究（専門職学習コミュニティ）を中心に据え、それを支える教職大学院・教育委員会・支援機構の持続的研修支援とそのネットワーク、およびそうした現職の実践・学習との接点・交流サイクルを組み込んだ養成段階のカリキュラムの実現に向けての調整を進め、包括的カリキュラムデザインとして提起するための研究を進める。</p> <p>②改革のための組織論的アプローチ 小ユニット開発普及型の教育課程過程モデルを超え、カリキュラムマネジメントの組織力開発のための協働探究ネットワーク型の改革モデルを実践的に開発提起</p> <p>③改革プロセスマネジメントに関する実践事例の比較検討を通した提言 教育課程改革に不可避ともなう既存組織の改編とそれをめぐるコンフリクトのマネジメントを含む、改革プロセスコーディネーション・マネジメントの研究を、実際の事例の比較検討を通して実践的に進め、今後のより広範な改革のために提起する。</p>	<p>.....</p> <p>①②③について、他大学を含む協働実践研究を進めるとともに、教職大学院協会等への提案をすすめる。教師の学びの改革を進める諸外国とも協働の実践と研究を進める。</p>
--	---	---

<IV. 「教員養成フラッグシップ大学推進委員会」所見>

取組の内容	進捗状況	今後の計画
<p>1) 自大学の課題解決のみならず、教員養成大学・学部以外における教員養成の高度化・機能強化に資する観点を含め、将来的に我が国の教員養成全体の課題解決につながるモデルとしての取組とすること。</p>	<p>① 教員養成カリキュラムの問題 教員養成大学・学部において、多くの場合、個々の細分化された科目が担当者ごとに独立・分断されたまま営まれたまま形式的な管理によって制御される状況が続いており、教職プログラムの総体として有意的にデザインされた教育課程とそれを常に発展的にマネジメントする組織の実現が課題となっている。</p> <p>② 学習観の転換アプローチの課題 とりわけ学習観の転換をともなう「主体的・対話的で深い学び」のファシリテーター・コーディネーターとしての教師の力量形成は少数科目での取り組みでは不可能であり、総体としてデザインされた教育課程とそれをマネジメントする組織の実現が不可欠となる。</p> <p>③ 改革実現のための包括的アプローチの実現 本フラッグシップ構想においては、実践的な力量形成のためのコアとなる新設科目とともに、既存の科目をコア科目と有機的に結びつけるデザイン、およびそれらをマネジメントする組織体制、およびそれらを運営する当事者のFD・SDの編成・組織を一体として提起の取り組みを包括的に推進している。</p>	<p>大学間の実践交流・支援機構や県との協働の推進を通して養成・研修の教育課程デザインの高度化とそのため組織マネジメント、さらには改革プロセスマネジメントについて協働の実践と研究を進めその成果を共有するとともにさらに広く発信していく。</p>
<p>2) 人的・物的・資金的リソースの提供等も含めた様々なステークホルダーとの連携・協働を介して、教員養成の課題解決を主導する取組とすること。</p>	<p>様々なステークホルダーとの継続的な連携・協働のためのサイクルとシステムの展開と拡大 学部生・院生、学校の教員・地域住民・教育行政関係者・企業や支援機構や文部科学省の担当者・他大学の教員・院生、諸外国の教員養成研修担当者、報道関係者等、教師教育改革に関わる様々なステークホルダー参加の実践共有と検証の公開セッション（実践研究ラウンドテーブル）（年2回・2日間・のべ1000人規模）を通して、実践と改革の展開を継続的に共有検証評価するとともに、そこでの相互理解を活かして、人的・物的・資金的リソースの提供の拡大にもつなげていく。企業とのクロスアポイントメント、支援機構との人</p>	<p>実践研究福井ラウンドテーブルの規模と機能の拡大発展を進めるとともに、企業・支援機構・教育委員会等との人的・物的・資金的リソースをめぐる協力関係を拡大させていく。</p>

	<p>的・予算的協力、教育委員会との一層の人的協働関係の推進の取り組みが進んでいる。</p>	
<p>3) 5年先を見据えたガバナンス体制をしっかりと構築すること。</p>	<p>組織強化と世代継承サイクルの展開 総合教職開発本部の三部門（国際教職開発・地域教職開発部・インクルーシブ教育部）の組織強化と事務組織の高度化を進め、多方面との協働とネットワークを持続的に発展させていく体制づくりを進めるとともに、中核教員・職員の世代交代に備えた人事的な措置を進めている。</p>	<p>持続的な発展のための組織強化・人的配置の拡充・安定的な予算確保の取り組みを継続的に進めていく。</p>
<p>4) 他大学、研究機関、教育現場、教育行政関係機関、NPO、民間事業者等と緊密に連携するとともに、教員養成フラッグシップ大学間での連携・協働も積極的に検討・推進すること。</p>	<p>2) に示したように学部生・院生、学校の教員・地域住民・教育行政関係者・企業や支援機構や文部科学省の担当者・他大学の教員・院生、諸外国の教員養成研修担当者、報道関係者等、教師教育改革に関わる様々なステークホルダー参加の実践共有と検証の公開セッション（実践研究ラウンドテーブル）を通して持続的に深い実践交流を重ねるサイクルを今年度も発展的に重ねてきている。 今年度は、このラウンドテーブルにおいて特別セッションにおいて教員養成改革とフラッグシップの企図についての特別フォーラム、また福井大学で行われた教職大学院協会の研究大会においてもフラッグシップと教師教育改革をテーマとした2つのシンポジウムを4大学参加で実施し、改革のための協働にむけての取り組みを進めている。</p>	<p>実践交流のセッションを規模・質ともに持続的に発展させていくとともに、とりわけ改革プロセスマネジメントをめぐる実践的な研究協議を発展させていくことが課題となる。</p>

<V. 申請大学に対する委員会審査意見> 福井大学

取組の内容	進捗状況	今後の計画
<p>1) これまで築いてきた実践者のネットワーク（コミュニティ）を基盤として、参加者の省察性の一層の高まりと外部からのコミュニティへのアクセスのし易さの向上を目指して、学内の組織改革、省察性を高めるカリキュラム改革、実践者の長期的成長の記録等をリソースとして用いたDX化を行い、ポートフォリオ等による学習プロセスの評価で成果を明らかにしていこうとする基本的枠組みは、教員養成フラッグシップ大学の一つの実践的展開として評価できる。</p> <p>.....</p> <p>2) 複合的実践力を掲げた教師像は明確であり、省察的実践の長期漸成サイクルの重要性は理解できるものの、教員養成フラッグシップ大学としての取組とこれまでの実践との差異を明確にし、今後何を新たに構想し、実現するかをより具体化した上で、革新性をもって取り組むことが必要である。</p>	<p>① 専門職学習コミュニティ（PLC）アプローチの意義 改革のための専門職学習コミュニティ professional learning communities の展開を通して教師の協働の学びを支えていく取り組みは、世界における教育改革においてもっとも重要で効果的なアプローチとして位置づけられるに至っている。</p> <p>② 生涯にわたる PLC 多重ネットワーク形成への企図 福井大学における構想は、現職中心のこの専門職学習コミュニティアプローチを大学院そしてさらに学部段階のカリキュラムにも結び、教師の生涯にわたる実践力形成コミュニティの多重ネットワークを実現しようとする企図である。</p> <p>③ PLC 基盤の養成研修カリキュラム改革 現在、フラッグシップ科目を中心に学部・大学院のそれぞれの取り組みを有機的に結ぶ教育課程の再構築を進めるとともに、教職員支援機構と結び探究型研修の全国への展開、福井県をはじめとする自治体レベルの悉皆研修の取り組みを進めている。</p> <p>.....</p> <p>① 学部 持続的に発展させてきている直接子どもたちに関わる長期的な活動を活かしつつ、現在の教育改革の世界的な焦点となっている co-agency, diversity, cross-curriculum, inquiry-based learning という新しい変革的なコンセプトに基づく抜本的なフレーム高度化を進め、それに対応する目標・カリキュラム編成・評価を実現する。それぞれのアプローチにおいて協働活動のネットワーク、学習記録・資料のデジタル化と共有システムを進め、それらを共有するとともに評価に活かしていく。</p> <p>② 大学院 ・学校拠点実践研究の取組の蓄積とそのネットワークを活かしつつ、実践と省察の長期的な展開を、これまでの個別科目の複合ではなく、9 単位の一貫した有機的コアサイクルとして定位・支援・評価する中核新科目を実現する。</p>	<p>① PLC の基礎研究・理論研究の推進 C. Argyris, D. A. Schön らの組織学習研究・E. Wenger らの実践コミュニティ研究・A. Hargreaves, M. Fullan の教師の PLC の展開に関する PLC の基礎研究を進めつつ、OECD・UNESCO をはじめとする世界の教育改革指針における教師の協働と PLC の提起等の動向を踏まえ PLC 研究の世界的な展開・発展を追う。</p> <p>②③ 教育課程改革と分散型コミュニティへの挑戦 専門職学習コミュニティアプローチを研修・大学院・学部を通じて継続的有機的に推進する教育課程デザインとそれを実現する組織・システムの形成およびその形成過程において不可避となる基盤組織改革のためのマネジメントに関わる実践と研究を、多くの機関と協働しつつ連携して進める。</p> <p>.....</p> <p>① 学部 ・Co-agency の本格実施と継続的なプロセス評価の実施 ・Life Partner の 2 年次試行サイクルとプロセス評価実施 ・STEAM・教科探究の試行と評価 縮減した既存カリキュラムを含む有機的協働マネジメントサイクルの構築</p> <p>② 大学院 ・本年度の試行を踏まえた「学校拠点省察的実践サイクル」（全 9 単位）の令和 5 年度 1 年次本格実施とそのプロセス評価の高度化 ・既存科目の縮減と有機編成を含む教育課程包括デ</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・同時に縮減する科目についても、内容を精査し、時期においても内容においてもコアサイクルの展開と密接に連動してより深く学べるようカリキュラムマネジメントの高度化を図る。 ・現職教員と学部卒院生のインターンシップを有機的に結びつけたこれまでのカリキュラムを、現職のより広範な研修、学部段階の協働探究プロジェクトとも結び、生涯にわたる、教育改革推進のための実践力形成の超長期サイクルの実現に結びつける。 	<p>ザインの編成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部および他学部・諸研修との連結交流サイクルの設定
<p>3) 他学部での教員養成への展開や、他学部が有するリソースを教員養成に生かすといった、総合大学の教育学部のモデルとなる取組を積極的に展開することが一層求められる。</p>	<p>① 他学部の学生と教育学部の学生がそれぞれの取り組みを交流・共有するサイクル、および②他学部の学生が、教育学部の学生とともに、現職教員の改革に向けての実践と学びに継続的に接することができるサイクルを組み込んだ新たな科目設定のための研究開発を進めている。</p> <p>② 他の専門職分野（医学・看護・工学等）においても、個別分野の専門職がそれぞれの枠を超えて協働して活動する力の必要性・重要性の自覚が進んでおり、他職種連携教育/学習 inter-professional education/learning が重要な課題となっている。このことも含め、個々の専門職の領域を超えてそれぞれの専門の取り組みを交流・共有し、協働の可能性をさぐるセッションの構成が重要となってくる。他学部学生が受講する共通教育科目、他学部向けの教職科目・教育学部の教職科目を結び専門分野を超えた実践交流のクロスセッションの持続構成を進め、試行を行う。</p>	<p>① 交流・共有サイクルを含む科目群をフラッグシップ科目として準備・試行し、令和6年度より教育課程への位置付けについて検討を進める。</p> <p>② 多分野交流サイクルを学部・大学院のフラッグシップ科目（学部 Co-agency, Life-partner, 大学院:「学校拠点省察的実践サイクル」）の中に位置づける。</p>

フラグシップ大学事業推進体制

教員養成フラグシップ大学総括責任者	松木健一(理事・副学長・総合教職開発本部長)
教員養成フラグシップ大学総括副責任者	山本博文(総合教職開発本部副本部長、教育学部長) 柳澤昌一(総合教職開発本部副本部長、連合教職大学院研究科長)
教員養成フラグシップ大学企画運営委員会	松木(正)・山本(副)・柳澤(副)・百田(人文社会系運営管理課長)・北島(教務課長) 他、学部・大学院・総合教職開発本部教員から構成 フラグシップに関連する各種ワーキングの総括を行う フラグシップ科目等の教職科目設置に向けた教育課程の検討を行う
(各ワーキング等)	
教職科目等の教育課程の検討	学部(構想検討委員会、教育課程委員会) 大学院(教務・カリキュラムマネジメント委員会)
大学間連携	松木・柳澤・木村優(教授)
企業連携・DX化	松木・三田村彰(学長補佐・特任教授)小林溪太(助教)足利昌俊(特命講師(内田洋行))
福井県教育委員会等連携	松木・柳澤・淵本幸嗣(総合教職開発本部地域教職開発部長・教授) 清川亨(東京事務所長・教授) 他(総合教職開発本部地域教職開発部員)
国際展開	清川・三田村・柳澤 他(総合教職開発本部国際教職開発部員)
NITS連携	松木・柳澤 他(連合教職大学院教員)
ラウンドテーブル	木村・柳澤 他(連合教職大学院教員)
附属学園	橋本康弘(附属学園長・教授)・牧田秀昭(附属義務教育学校(幼稚園)長・教授)・ 吉田弥恵子(附属特別支援学校長・教授)
事務局	水野(総合教職開発本部課長補佐) 他(人文社会系運営管理課・教務課)

指定大学が加える科目

大学名：福井大学

学部/ 大学院	科目名	対象学年	単位数	必修	選択	選択の場合、履修方法 ※教員免許取得に係る履修方法	免許種	重点テーマ	開設年度	科目概要
学部	Co-Agency（学びを支えるファシリテーション）（仮）	1前	1	1			一種（幼小中）	①④	令和6年度	令和5年度は準ずる科目として開講し、令和6年度に指定大学が加える科目として開講予定。
学部	Co-Agency（ファシリテーションの理論及び方法）（仮）	1後	1	1			一種（幼小中）	①④	令和6年度	令和5年度は準ずる科目として開講し、令和6年度に指定大学が加える科目として開講予定。
学部	Life Partner学習支援Ⅰ（仮）	2前	1	1			一種（幼小中高）	⑥	令和6年度	令和5年度は準ずる科目として開講し、令和6年度に指定大学が加える科目として開講予定。
学部	Life Partner学習支援Ⅱ（仮）	2後	1	1			一種（幼小中高）	④⑥	令和6年度	令和5年度は準ずる科目として開講し、令和6年度に指定大学が加える科目として開講予定。
学部	STEAM教科探究（仮）	2前	1	1			一種（小中高）	⑤	令和6年度	令和5年度は準ずる科目として開講し、令和6年度に指定大学が加える科目として開講予定。
学部	STEAM教材開発（仮）	2後	1	1			一種（小中高）	⑤⑥	令和6年度	令和5年度は準ずる科目として開講し、令和6年度に指定大学が加える科目として開講予定。
学部	省察的実践と地域との協働（仮）	2前	1	1			一種（幼小中高）	②④	令和6年度	令和5年度は準ずる科目として開講し、令和6年度に指定大学が加える科目として開講予定。
大学院	学校拠点・省察的実践 コアサイクルⅠ（状況把握・テーマ設定・試行のサイクル）	1前	2		2		専修（小中高）	①②③ ④⑦	令和5年度	21世紀の学校において求められる学習の転換を実現するための実践の場における長期プロジェクトの立案・試行・省察とその発展的な再構成のサイクルを、実践と省察、事例研究・理論研究の有機的発展的な継続を通して学び、実践的な力量を培うことを目指す。
大学院	学校拠点・省察的実践 コアサイクルⅡ（基本的展開サイクル構築展開と省察）	1後	2		2		専修（小中高）	①②③ ④⑦	令和5年度	
大学院	学校拠点・省察的実践 コアサイクルⅢ（長期展開サイクルの構成展開）	2前	2		2		専修（小中高）	①②③ ④⑦	令和5年度	

指定大学が加える科目

大学名：福井大学

学部/ 大学院	科目名	対象学年	単位数	必修	選択	選択の場合、履修方法 ※教員免許取得に係る履修方法	免許種	重点テーマ	開設年度	科目概要
大学院	学校拠点・省察的実践 コアサイクルⅣ(長期展開 サイクルの展開・省察・展 望)	2後	2		2		専修(小中高)	①②③ ④⑦	令和5年度	21世紀の知的障害及び肢体不自由・病弱児の特別支援学校において求められる学習の転換を実現するための実践の場における長期プロジェクトの立案・試行・省察と、その発展的な再構成のサイクルについて、障害児教育の実践と省察、事例研究・理論研究の有機的発展的な継続を通して学び、実践的な力量を培うことを目指す。
大学院	学校拠点・省察的実践 コアサイクルⅤ(長期展開 サイクルの記録化・交流・ 評価)	2後	1		1	9単位以上修得すること	専修(小中高)	①②③ ④⑦	令和5年度	
大学院	特別支援学校拠点・省 察的実践コアサイクルⅠ (状況把握・テーマ設定・ 試行のサイクル)	1前	2		2		専修(小中高)	①②③ ④⑦	令和5年度	
大学院	特別支援学校拠点・省 察的実践コアサイクルⅡ (基本的展開サイクル構 築展開と省察)	1後	2		2		専修(小中高)	①②③ ④⑦	令和5年度	
大学院	特別支援学校拠点・省 察的実践コアサイクルⅢ (長期展開サイクルの構 成展開)	2前	2		2		専修(小中高)	①②③ ④⑦	令和5年度	
大学院	特別支援学校拠点・省 察的実践コアサイクルⅣ (長期展開サイクルの展 開・省察・展望)	2後	2		2		専修(小中高)	①②③ ④⑦	令和5年度	
大学院	特別支援学校拠点・省 察的実践コアサイクルⅤ (長期展開サイクルの記 録化・交流・評価)	2後	1		1		専修(小中高)	①②③ ④⑦	令和5年度	

必要修得単位数 16単位